



## 2. 指標設定

成果指標	指標名	生産者の育成及び作業の効率化	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	—			総合計画/後期計画(4-1-1)重点施設1による			
活動指標	指標	a 人工ほだ場等整備	b	簡易作業路の整備	c	種駒補助	d	生産団体の育成
	数値	目標	—	目標	—	目標	—	目標

## 3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
生産者の育成及び作業の効率化		—	—	—
		—	—	—

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 人工ほだ場等整備	人	11 人	16 人	16 人
b 簡易作業路の整備	m	9,700 m	9,450 m	11,193 m
c 種駒補助	千円	13,355 千円	12,395 千円	10,283 千円
d 生産団体の育成	団体	1 団体	1 団体	1 団体

## 4. 課題と対応

課題
生産者の高齢化また原発事故による風評被害により乾椎茸の生産量は年々減少している。
対応（改善点等）
新規参入者の育成指導及び、企業参入等を視野に入れた政策を行い、生産量及び品質の維持向上を行う。

## 5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

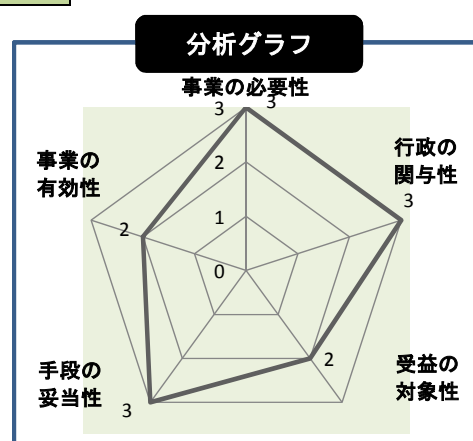
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
		34,658	36,898	29,226	44,835
うち経常経費		14,673	13,735	11,578	18,377
財源内訳	国費				
	県費	12,102	11,964	10,933	21,078
	市債				
	その他				
	一般財源	22,556	24,934	18,293	23,757
うち経常		14,673	13,735	11,578	18,377
事業費に係る人件費		11,137	12,366	11,769	10,867
事業費に係る人役		2.59	2.88	2.70	2.45

## 6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
生産量及び品質維持向上に必要な事業である。

## 7. 担当課による分析

	着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	市の主な品目の一つであり、市としても推進する必要がある。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3	市の主な品目の一つであり、市としても推進する必要がある。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	2	受益者が椎茸生産者に限られている。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3	今後は種駒の補助や品評会の開催方法等について検討する。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2	作業の効率化が図られている。



## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き、補助金交付要綱の遵守を図りながら、課題解決に向けて生産の向上に努力すること。また、市単独補助金の見直しを進めること。